

英語

慶應義塾大学 商学部 1/2

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

VIIとVIIIが記述式で、それ以外はマーク式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

・2020年度以降の長文3題(大問I～III)の総語数は、「2,390→1,985→2,523→2,533→2,505→2,361→2,358」で推移している。この3題以外にも読解系の大問が4題あり、全体の英文量は非常に多いので、時間配分に注意する必要がある。

・2020年度以降の客観式の設問数は、「44→47→45→47→46→46→46」となっている。

出題の特徴や昨年との変更点

・2017年度以来出題されていなかった「中文による内容一致問題」が2020年度に復活し、大問数が7から8になり、2026年度もこのパターンを踏襲している。

・長文問題は全29問で構成される。その内訳は、空所補充が10問、下線内容説明が10問、内容一致が7問、タイトル選択が2問である。

・大問IVでは、2025年は7問中5問が動詞関連の問題だったが、2026年度は文構造や品詞、多義語の意味など、様々な知識に関する問題が出された。

・大問I～IIIの長文および大問V・VIの中文の内容一致問題は、推論させるものや文章全体の要約に近いものの(タイトルを含む)が出題されることが多い。

その他トピックス

・単語の派生形の綴りを問う問題が出題される。

英語

慶應義塾大学 商学部 2/2

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「系譜学とは何か」 (729 words)	空所補充、下線内容説明、内容一致、タイトル選択 本文に一部難解な箇所は見受けられるが、要旨は極めて明快なので、選択肢を手掛かりに本文を読み進めていけばよいだろう。選択肢に紛らわしいものはほぼ存在しないため、該当箇所の文脈を正確に把握できるかが肝要である。	標準
II	読解総合	「デジタル時代に拡大する読解力の階級格差」 (796 words)	空所補充、下線内容説明、内容一致 下線の内容説明においては、下線の意味を語義どおりに捉えたのち、文脈に照らして選択肢を吟味する必要がある。	標準
III	読解総合	「民主主義を守るために教育の役割」 (833 words)	空所補充、下線内容説明、内容一致、タイトル選択 段落ごとの論旨が明確なため、内容一致問題は比較的容易であった。通読の段階で各段落の要諦を把握できれば、迅速かつ正確に正答を導き出すことが可能である。	やや易
IV	文法・語法	空所補充	基本的な語彙と文法知識の問題。文構造の把握や品詞の判別、語彙に関する基礎知識が備わっていれば、正誤の判定は比較的容易である。	やや易
V	その他	中文空所補充	英文中の6箇所の空所を埋める語句選択問題。題材は「集団に属さない個人が享受する自由」についてであった。(39)では、hive「ハチの巣」を「集団への帰属」の比喩として解釈できるかが鍵となっているなど、一部に高い思考力を要求する設問も見受けられた。	標準
VI	その他	中文内容一致	4つの文章(100~130語)を読み、そこから推測できる内容を選ぶ問題。英文は比較的平易であり、紛らわしい選択肢もほぼないので、確実に正答につなげたい。	やや易
VII	その他	中文空所補充(記述)	英文中の6つの空所に、与えられた6つの動詞を必要に応じて語形を変えて補充する。語形を変える際には、時制や態のほかに文構造にも注意する。	標準
VIII	その他	中文空所補充(記述)	英文中の5つの空所に、与えられた5つの動詞を適切な名詞形にして補充する。語彙のレベルは比較的高いものが多かった。名詞形に正しく直すだけでなく、単数・複数の扱いにも注意する。	標準

注: 区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

英文の難易度は標準的で設問も素直なものが多いため、基礎的な語彙・文法知識と読解力を備えていれば、十分に対応可能である。一方で、総語数は極めて多く、制限時間内に完答するには「精読に裏打ちされた速読力」の練成が欠かせない。また、例年課される記述式の語彙問題を見据え、単語を正確に綴る練習も肝要である。